

人文学研究所主催の講演会記録 (1965 年度～ 2012 年度)

	年	月日	氏 名	テーマ
1	1965	5/26	信太 正三	日本における実存主義の系譜（研究会）
2		6/6	山本 新	二つの転向
3			谷川 徹三	東洋と西洋（開所記念講演会、横浜市開港記念館）
4		6/17	松山 昇太郎	トマス・モア及びユートピアの文献について（研究会）
5		10/14	島田 謹二	私の「比較文化」への道（研究会）
6		11/2	山本 新	刺激伝潘（研究会）
7		12/1	板垣 与一	東南アジア・ナショナリズムの文明論的考察（研究会）
8		12/9	内田 芳明	ウェーバーにおける比較文化（研究会）
9	1966	2/16	神川 正彦	明治維新論に関する予備的論理分析と思想史のアプローチの意義（研究会）
10		6/16	勝本 清一郎	“文学界”の頃（研究会）
11		6/23	向井 俊二	ブルック大尉の日記—咸臨丸上の日本人—（研究会）
12		10/14	山田 操	明治における地方統治と地方自治（研究会）
13		10/28	久保 和彦	ユートピア論（研究会）
14		12/1	飯田 耕作	トマス・モアとユートピア（研究会）
15		12/15	三枝 充恵	インドにおけるユートピア思想（研究会）
16	1967	1/26	福田 実	19 世紀アメリカのユートピア思想の原理（研究会）
17		2/9	太田 三郎	比較文学の方法と問題（研究会）
18		6/28	三宅 正樹	太平洋戦争への道（研究会）
19		10/25	山本 新	周辺文明からの独立（研究会）
20		11/29	金井 円	欧米における日本研究（研究会）
21	1968	2/8	山本 正男	比較美学（研究会）
22		2/21	中村 元	比較哲学（研究会）
23	1975	10/22	後藤 総一郎	日本精神史への視角—柳田国男と現代
24		12/10	小川 鳥夫	教育制度の改革について
25	1976	1/14	尾原 悟	16～17 世紀に於ける西欧文化の受容—自然科学の受容を中心として
26		5/19	芳賀 登	幕末の江戸文化
27		6/23	鈴木 秀勇	転換期の教育思想—エミールの解釈問題
28		10/6	大野 盛雄	フィールド・ワークの思想
29		12/1	青木 康征	大航海時代の人々—コロンブスとペーハイムを中心に
30	1977	3/9	福田 實	チカノ問題の原点と歴史的状況
31		6/25	福田 實	チカノ問題の歴史的背景と現況（1）
32		7/6	福田 實	チカノ問題の歴史的背景と現況（2）
33		10/18	持田 栄一	生涯教育論批判

34		11/11	富岡 倍雄	シリアの文化と風土
35		12/6	倉田 清	アンガージュマンとは何か—その歴史的展望と意義
36		12/10	岡野 哲士	「B.C. 5 世紀のギリシャ悲劇について」—「ボイテカ」はその意味を解く鍵となり得るか
37	1978	5/3	橋本 侃	シェイクスピアと古代ギリシャ悲劇
38		6/21	廣松 渉	ヘーゲル・マルクス関係の再検討—（ある断面）—
39		10/26	山本 新	ユダヤ人・ディアスポラの形成
40		12/6	向井 俊二	一つの文学的アプローチ：バーナード・マラマッドの場合
41		12/13	渡辺 恵子	日米の母親と講師—日米合同調査報告—
42			片岡 美智	イスラム世界でのイランの特殊性—中近東における宗教の伝統と朝日へのヴィジョン
43		12/16	藤田 一成	17 世紀スペインにおける自由主義の敗北—社会分裂の萌芽—
44	1979	5/28	工藤 喜作	反ユダヤ思想形成の一例—ウリエル・ダ・コスタの場合—
45		11/8	向井 俊二	政治的人間としてのユダヤ人—バーナード・マラマッドの場合—
46		11/28	川崎 淳之介	中央アジアのルネサンス—シルクロードの王者チムールの生涯の実績（エリザベス朝演劇研究の視座から）—
47	1980	2/27	矢島 文夫	イスラム文化とヨーロッパ
48		6/25	井上 幸治	歴史の地平—歴史研究の一方向—
49		11/12	五十嵐 良雄	戦後大学政策の歴史的展開過程—大学情況論を中心として—
50		11/26	クリストフ・ヘフケン	ボン大学東亜研究所の活動について
51	1981	6/24	戸張 智雄	ギリシア悲劇の伝統—フランスにおける継承をめぐる—
52		10/14	西郷 信綱	古典をどう読むか
53		11/18		学術交流について
54	1982	6/9	大橋 健三郎	フォークナーと今日の小説
55		7/7	遠山 茂樹	自由民権運動の歴史的意義
56		10/25		都市における宗教—比較考察—
57		11/10	セルゲイ・アントーノフ	現代文学と人間の立場
58		12/8	後藤 明生	笑の作法を中心に
59	1983	5/25	篠原 正瑛	ドイツの過去と現在
60		6/29	渡辺 淳	スペクタクルとしての世紀末—パリを中心に—
61		12/10	岩淵 達治	東西ドイツ演劇の問題点
62	1984	5/30	内海 孝	神奈川地域史研究の動向と課題—近代を中心に—
63		7/11	田村 秀夫	トマス・モアをめぐる—キリスト教とヒューマニズム—
64		10/24	細川 正昭 ブキ・キム女史	ドイツにおける日本文化
65		11/7	キム・レーホン タラマ・バラショウヴァ	ソ連アカデミー・世界文学研究所の組織と活動について
66	1985	10/2	梶 幸雄	湾岸都市としての横浜問題
67		11/1	加藤 尚武	ヘーゲル哲学と現代自由論
68		11/28	ドゥニ・ゴンタル	フランス古典劇と歌舞伎・能における悲劇性について

69	1986	11/26	峰岸 純夫	シンポジウム「模擬対決 ―復古調教科書『新編日本史』をめぐる― (1)」
			君島 和彦	
			小林 一美	
			中島 三千男	
70		12/10	早島 鏡正	親書の世界
71	1987	2/25	日野 舜也	アフリカの都市文化
72		3/10	石原 保徳	バルトロメー・デ・ラス・カサスと新大陸征服
73		11/11	井上 研一郎	北辺の画人・蠣崎波響
74		12/2	毛 韻沢	特別講演会「グラムシと現代」
			U. シェライパー	
			A. ナトリ	
75		12/9	孫 玄齡	中国の伝統音楽―帯演と実演―
76	1988	2/24	生田 滋	大航海時代とキリスト教禁教令
77		5/9	田川 純三	シルクロードから大黄河へ
78		5/21	小倉 充夫	後発性と農村・都市間労働移動
79		7/8	青木 隆明	日本人の〈場所〉―日本人はいま、どこにいるのか―
80		11/22	金井 淑子	日本近代化の中のフェミニズム
81		12/7	多田 道太郎	「共同研究」をめぐる
82	1989	2/22	柳沼 幸一郎	17世紀前後における日本とヌエバ・エスパーニャー政治・通商関係を中心に―
83		6/7	加藤 哲郎	世界システムの循環と東京の世界都市化
84		6/12	加々美 光行	シンポジウム「激動する中国」
			小島 晋治	
			尾上 兼英	
85		11/21	井上 章一	シンポジウム「ハイカラ・モダン・ポストモダン―《新しい女たち》をめぐる―」
			鈴木 貞美	
			司会：日高 昭二	
86	1990	11/17	酒井 正美	東ドイツの政経事情
87		11/21	日野 啓三	90年代における「小説」の可能性
88		11/24	安藤 光一	東独革命の社会心理的背景
89		11/27	カレル・フィアラ	日本文化の国際性
			張 競	
			司会：日高 昭二	
90		12/1	南塚 信吾	ソ連・東欧情勢をめぐる
91	1991	10/23	永井 路子	歴史小説の周辺
92		11/17 ～20		杭州大学との学術交流シンポジウム 「第1回 神奈川大学人文学研究所・杭州大学日本文化研究中心」
93		12/2	フロレンティノ・ロダオ	私の見た日本
94		12/4	板垣 雄三	イスラームの文明的メッセージ
95	1992	5/7	王 曉秋	中国における日中関係史研究

96		6/4	田野倉 稔	芸能の東西交渉
97		6/19	Carl John Aaron	Social Dimesions of Japanese Overseas Investments
98		11/10	徐 方奎	中国における俗文学研究の現状と課題
99		11/19	望月 芳郎	小説の変貌
100		11/20	馬場 さつき	ジャパニーズ・アウトリーチ・プログラム
101		12/15	John Russell	日本人の黒人観
102	1993	6/23	村山 七郎	アイヌ民族とは
103		7/23	馬 興国	中国東北文化圏と日本
104		11/1 ～3		杭州大学との学術交流 シンポジウム 「第3回 神奈川大学人文学研究所・杭州大学日本文化研究中心」
105		11/24	栗原 幸雄	1930年代を読み直す
106		12/8	孫 江	中国人は秘密社会をどう見ているか
107	1994	6/8	小島 晋治	毛沢東フィーバーと中国
108		6/29	古岩井 嘉蓉子	ことばが成りたつとき
109		9/28	王 宝平	中国における日本研究
110		10/11	曲 乙六	中国宗教芸能の研究動体
111		10/26	石井 陽一	ゆれ動くメキシコ・中米・カリア
112		10/29 ～ 11/6		杭州大学との学術交流 「第4回 神奈川大学人文学研究所・杭州大学日本文化研究中心 シンポジウム」
113		11/24	黒沼 ユリ子	黒沼 ユリ子・メキシコに暮らして
114		11/30	山形 治江	古代ギリシャ演劇と祭り
115		12/14	中本 信幸	ロシアはどこへ行く
116	1995	1/18	小林 一美	中華帝国の国制と日本封建制の比較
117		1/25	鈴木 陽一	江南文化一瞥
118		2/15	後藤 淑	中国の儺堂戯と日本芸能
119		3/7	方 淳	東京の中国人—犯罪事件を中心にして
120		7/14	Joseph F. Kees	カナダにおける二言語・二文化言語政策
121		7/21	中里 巧	デンマーク黄金時代
122		10/20	田尻 陽一	スペインにおける聖なる母
123		11/13 ・14		杭州大学との学術交流 「第5回 日中学術交流シンポジウム」
124	1996	10/30	辻 昶	ロマン主義雑感
125		11/4 ・5		杭州大学との学術交流 「第6回 神奈川大学・杭州大学学術交流シンポジウム」
126		11/8	高橋 康也	シェイクスピアと笑い
127		11/20	山本 定祐	ドイツ・ロマン主義と美の規範性
128	1997	6/3	上田 洋子	ブラックフェミニズムの将来
129		7/2	小森 陽一	漱石における笑いと明治という時代
130		11/10 ・11		杭州大学との学術交流 「第7回 日中学術交流シンポジウム」

131		12/9	アニシモフ、レオニード・イヴァノヴィチ	環太平洋国際文化交流の未来—日本とウラジオストク・沿海州—
132		12/17	松本 仁一	アフリカを食べる—ジャーナリストの目と胃袋
133	1998	7/15	中井 章子	ノヴァーリスと自然神秘思想
134		11/2・3		杭州大学との学術交流「第8回日中学術交流シンポジウム」
135	1999	6/18	池上 嘉彦	ことばと物語のインターフェイス
136		6/26	廖 赤陽	東南アジアの金融・通貨危機と華人資本の動向
137		7/7	鳥越 輝昭	ヴェネツィアの近代化と三人の文学者—マリネッティ、ラスキン、レニエと機械性の問題
138	2000	10/7	管原 昭	タイ国民経済形成と農村市場—戦間期—
139		1/10	中村 浩平、王 宝平、橋川俊忠、 鈴木 修一、望月 真澄、張 涌泉、李 明友	第10回日中学術交流シンポジウム
140		1/17		
141		10/18	広瀬 友久	イギリス・ロマン主義の自然観
142	2001	1/12	巴 兆祥	観光資源としての民俗
143		6/20	Hoyt J. Long	日本の環境文学と『自然』その概念—比較環境文学の可動性と困難さ—
144		1/10	阿部 浩己、金 敬得、高木 嘉孝	21世紀、アジアの座標軸を求めて—戦後補償と在日外国人の人権
145		1/11	金庸、陳平原、摩 何斌、王 勇、 岡崎 由美、鈴木 陽一、佐野 賢治、 山口 建治	第11回日中学術交流シンポジウム
146		1/11	呂 紹理、清水 賢一郎、貴志 俊彦、 孫 安石、川島 真	東アジア近代史とラジオ放送の誕生
147	2002	2/19	尹 健次、孫 歌、白 永瑞、砂山 幸雄、 横堀 和巳	21世紀、アジアの座標軸を求めて—東アジアの相互認識
148	2003	11/2	伊坂 青司、寺澤 正晴、王 向華、程 郁、 陳 昌洙、オスカー・カンボマーネス、 市川 幸一、朴 順愛	シンポジウム「アジアのポップカルチャーと日本」
149	2004	5/10	藩 建国	中国における探偵小説研究の現状
150		5/19	紅 帆	中国雲南省の留学生と雲南現代社会
151		9/7	福元 雄二郎	神奈川県における外国人居住地の実態
152		11/18	芹沢 俊介	講演と上映「現代アジアと家族」
153	2005	6/3	朱 健榮	2005「反日」を考える
154		7/2	レイナルド・C・イレート	Pasyon & Revolution and Philippine Studies from 1980 to the Present
155		7/3	ベリンダ・A・アキノ 鈴木 健	在日フィリピン人女性のエンパワメント
156		8/30	福元雄二郎	在日、日系ラテアメリカ人と多文化共生
157		11/11・12	メアリー・ナイトン、王 勇、 シュテフィ・リヒター、川田 順造、 D・ラゴージン、ドナルド・キーン	シンポジウム「世界から見た日本文化—多文化共生社会の構築のために—」
158		11/26・27	丹野 清人、鎌田 ファチマ、山脇 千賀子、 堀口 江利、高橋 徹、籍 聡介、 禹 載星、平野 裕二	シンポジウム「外国籍住民との共生社会の創造（Ⅱ）『滞日 LATINOS』と外国籍住民の『権利』問題を中心に」
159		12/7	松井 貴子	フォンタネージの自然現象

160		12/9	小林 信行	環境倫理学と生命倫理学の双曲線
161	2006	3/29	崔 源九, 孫 震海, 鄭 夢周, 松本 文夫, 小林 悦夫, 曾 德深, 吳 圭祥, 曹 壽隆, 楊 筱蓉, 中 和子	シンポジウム「外国籍住民との共生社会の創造 (Ⅲ)」
162		12/13	佐々木 理臣	日中関係の今
163		12/16	竹内 敦子	関東国際高校でのロシア語教育
164		2/21	小林 一美	中国明, 清, 国民, 人民共和国の地方官 (県知事, 県書記) などの任期と勤務の実態
165	2007	6/3	多賀 敏行	外交官が見た日本外交
166		6/20	早川 秀樹	外国籍住民と共に生きるまちづくり—横浜いちょう団地からの報告—
167		6/23	竹田 純郎	日本の近代を問う—哲学の視点から
168		6/27	尹 慧瑛	北アイルランドという〈場〉—ポスト植民地主義／紛争の諸課題
169		6/29	浜崎 あえか	児童虐待—その現状と対応
170	2008	4/19	舩谷 鋭	新村形成期に於けるマラヤ華人の現地意識について
171		4/23	Ku Yenlin	現代台湾のジェンダー問題
172		5/28	金 應教	韓国現代詩の魅惑
173		10/24	上田 敬	企業内でのキャリア開発の活動とキャリアカウンセリングについて
174		11/7	菅野 陽子	被害者の心理について
175		12/11	小松崎 浩司	キャリア形成の考え方
176		2/19	孫 玄齡	在日 20 年をふりかえる—教育と研究を中心に—
177	2009	4/17	竹内 敦彦	景観の色に関する地理学的視座と地理学の醍醐味—ヨーロッパの建築景観を中心に—
178		6/8	鳥本 雅喜	「中国残留日本人」から考える—支援の現場から—
179		6/18	栄枝 慶樹	ビジネスとしてのスポーツマネジメント—プロスポーツ選手の実情—
180		7/11	佐藤 良明	演歌—日本のポストモダン歌謡
181		7/16	稲田 清貴	JISS の概要と我が国の競技力向上の仕組み
182		7/24	吉本 耕治	言語文化研究の楽しみ—現代の文化交流を視野にいれて—
183		11/5	堀尾 直美	フォーカシング体験セミナー
184		11/6	菅野 陽子	被害者の心理について
185	2010	6/8	伊藤 千尋	スペイン語から世界が見える
186		8/24	カイ・ミッコウネン	“Narrative Agency in Graphic Storytelling: Examples from Jiro Taniguchi's <i>Quartier Lointain</i> (<i>harukana machi-e</i>)”
187			エレナ・ベレイラ	“Jose Saramago's <i>Blindness</i> , the Book and the Movie”
188		10/27	小峯 和明	琉球と東アジアの異文化交流をめぐる
189		10/28	中村 又蔵	海外で歌舞伎を演じる
190	2011	3/6	馬場 禮子	今求められる心理臨床家の姿
191		5/27	篠山 淳子	発達障害を持つ人の心に添う
192		6/7	伊藤 千尋	学生時代にできること
193		7/9	中林 伸浩	東アフリカのキリスト教化と国民文化

194		6/18	ピーター・スウィルスキー	レムの手紙と精神 (Lem in Letter and Spirit)
195		6/18	ベレリー・グレチコ	スタニスワフ・レム作品のロシア語訳における検閲の問題 (Traduttore, traditore. Political Censorship in Russian Translations of Stanislaw Lem)
196		6/18	沼野 充義	スタニスワフ・レム,あるいはラディカルな相対主義 (Stanislaw Lem, a radical relativist)
197		7/30	藤井 昇三	辛亥革命をどうとらえるか ―辛亥革命 100 周年―
198		11/1	赤石 千衣子	これからの働き方と子育て〜格差社会を生きるということ〜
199		11/8	栗原 俊之	健康と筋肉脂肪
200		12/15	横尾 俊成	思いをつなげる。街を動かす。
201		12/20	小西 優	コンデショニングと健康
202	2012	1/20	富森 崇	東日本大震災における心のケア活動
203		4/19	平澤 慎也	アイデンティティについて
204		6/7	稲田 清貴	我が国の国際競技力向上の取組みについて
205		6/22	篠山 敦子	発達障害の人に学ぶ
206		7/9	王 新生	戦後、東アジアの政治発展
207		7/10	藤田 善也	スポーツ科学を用いた競技現場へのアプローチ―国立スポーツ科学センターでの実践例とコーチングへの応用―
208		10/9	高屋 康彦	神奈川県 の地形の概要
209		10/18	羽染 功一	スポーツツーリズムにおける民間企業の役割：メガイベントを支える JTB の戦略
210		11/24	矢吹 晋	日中 40 年と私の中国研究
211			劉 樟	中国関係に真の民間支援を構築せよ
212		12/6	宮木 宗治	スポーツイベントの社会的意義
213		1/18	富森 崇	福島県の現状と放射線不安への取り組み